

学習活動の特性に応じたツール選択を支援するチャート

A Tool Selection Chart for Various Types of Learning Activities

—LMSとSNSの比較—

A Comparison of LMS and SNS

長岡千香子

喜多 敏博

平岡 齊士

中野 裕司

鈴木 克明

Chikako NAGAOKA Toshihiro KITA Naoshi HIRAOKA Hiroshi NAKANO Katsuaki SUZUKI

熊本大学

Kumamoto University

＜あらまし＞近年、Moodle のような Learning Management System (LMS) だけでなく、Facebook のような Social Networking Service (SNS) を利用した教育実践が数多く行われている。しかしながら、利用者が実践内容に応じてツールを選択できていない実践もあると考えられる。本研究では、データの保持性等の観点から LMS・SNS それぞれの代表的なツールである Moodle と Facebook の強みと弱みについて比較し、最適な ICT ツール選択の支援ができるチャートを作成した。

＜キーワード＞ SNS, LMS, ツール選択, 情報共有

1. はじめに

現在、日本の多くの大学で LMS や SNS を利用した教育実践が行われている。しかし、実践内容に応じてツールを選択するのではなく、選択したツールの特性に合わせて実践内容を設計していることもありそうである。その原因として各ツールの特性やツールを活かした実践内容が明確になっていないことが挙げられる。例えば、課題の管理などを行う学習支援システムである LMS とコミュニケーションを主な目的としたツールである SNS では、同じ学習活動を行うとしても、それぞれに強みと弱みが存在する。そこで本研究では、Moodle と Facebook の強み・弱みについて複数の観点から比較し、その比較に基づいて、最適なツール選択を支援するための指針となるチャートを作成した。

の拡散性を軸とする平面からなり、どのあたりの領域を LMS と SNS のそれぞれが得意としているのかを示している。自分が行う学習活動がこの平面のどこに位置するのかを整理・確認することで、LMS と SNS のどちらがより、その学習活動に向いているのかがわかる。下記は架空の事例である。

学習活動事例 A : A 大学医学部では、ある症例について学生同士でディスカッションをさせたい。担当教員の要望は下記であり、図 1 上に位置づけた場合、推奨されるツールは LMS となる。

データの保存性	来年の授業でも参考にしたい。
フォーマル性	各学生のディスカッションに対する貢献度が成績に反映される。
アクセス性	個人情報の関係から、関係者以外アクセスできないようにしたい。
データの拡散性	拡散させたくない。

学習活動事例 B : B 大学幼稚教育学部では保育実習後のレポート作成の前段階として、各学生に保育実習後の感想を相互にやりとりさせていく。担当教員の要望は下記であり、図 1 上に位置づけた場合、推奨されるツールは SNS となる。

データの保存性	特に不要
フォーマル性	成績とは関係なく、学生同士で自由にやってもらうので特に不要。
アクセス性	大学の学生だけでなく、できれば実習先の担当者など多くの関係者にみてもらい、助言してもらいたい。
データの拡散性	特に不要。

2. LMS と SNS の比較

まず、本研究では、複数の観点から Moodle と Facebook それぞれの特徴を書き出し、比較表（表 1）としてまとめた。具体的には「データの保持性（データを保存したい/その場だけよい）」、「フォーマル性（フォーマルな利用/カジュアルな利用）」、「アクセス性（関係者以外にも公開したい/アクセスを制限したい）」、「データの拡散性（内輪だけの利用/拡散してほしい）」の 4 つの観点から LMS と SNS の特徴をまとめた。

3. ツール選択のためのチャート

比較表（表 1）に基づき、学習活動にとって最適なツール選択を支援するためのチャートを作成した（図 1）。チャートはデータの保存性・フォーマル性を軸とする平面とアクセス性・データ

4. 本研究のまとめと今後の予定

本研究では、LMS と SNS の強み・弱みを比較し、ツール選択のためのチャートを作成した。今後、比較表とチャートに対する専門家評価を行い、妥当性を高めたい。

表1: LMSとSNSの特徴の比較

	LMS 想定:Moodle	SNS 想定:Facebook
データの保存性	データを保存したい 過去の授業の情報を参照したり、他の教員が参照できるように、学習活動のデータを残しておきたい。	基本的にすべてのデータは大学のサーバー等に保存されるので、データはその大学の責任のもとで保存される。
	その場だけでよい 「実習に関して自由に感想を言い合う」など、特に学習活動のデータを残して活用する予定はない。	LMS上で入力した情報は全て保存される。どの情報も記録され、学習者の権限では削除することができない。
フォーマル性	フォーマルな利用 「最終課題の提出」など、成績と結びつくようなフォーマルな学習活動を行いたい。	提出された学習成果物は組織だって管理され、各学習活動と評価機能などが連結しているので、効率よく、成績がつけられる。
	カジュアルな利用 「実習で気づいた点を随時、他の学生と共有する」など、カジュアルな学習活動を行いたい。	基本的に大学のLMSは随時、ログインをする必要があるため、ちょっとした気づきを入力するなどのカジュアルな利用には向かない。また、学習者は入力する際、比較的、慎重になりやすいと考えられる。
アクセス性	関係者以外にもアクセスを許可したい 「学生の実習先の担当者にもディスカッションへ加わってもらいたい」など、学生以外もアクセスを可能にしたい。	LMSは、アカウント登録がある人のみが利用できるように設計されており、関係者以外がアクセスして利用することは一般的ではない。ゲストアクセスの機能を用いたとしても、課題提出やディスカッション書き込みをさせることはできない。
	アクセスを制限したい 「特定の症例に対するディスカッション」など、個人情報のやり取りがあるので、関係者以外、アクセスできないようにしたい。	大学のLMSは一般的に非公開なので、アクセスに制限をかけられる。また、関係者全員だけでなく、特定の学習者・グループのみ、アクセスできるように設定できる。
データの拡散性	内輪での利用 「学習者同士の情報共有」など、内輪だけの利用を想定しており、共有された情報が拡散していくことは望まない。	元々、LMSのコースページは内輪向けになっている。アクセスに制限がかけられるので、拡散してほしくない情報が拡散する心配はない。
	拡散させたい 研究成果をまとめたポスターなど、学習成果物が多くの人々に見てもらえるように拡散・宣伝したい。	大学のLMSは一般的に非公開なので、学習活動の結果得られた学習成果物の拡散は発生しにくい。

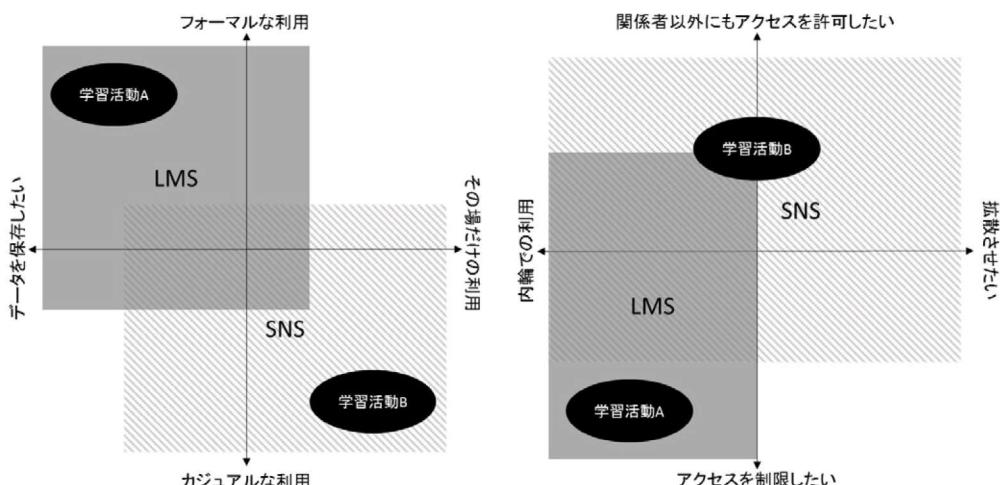


図1：最適なツール選択を支援するためのチャート